
2017年度決算説明会

2018年5月14日
Hitz日立造船株式会社
取締役会長兼社長 谷所 敬

目次

1. 2017年度連結決算概況
2. 2018年度業績見通し
3. 2017年度トピックス
4. セグメント別詳細
5. 補足資料（小セグメント）

1. 2017年度連結決算概況

- **環境国内継続的事業の受注高が増加したこと**
- **Inova社の個別工事の採算が悪化したこと**

(億円)

	2016年度		2017年度		比較	
	実績		見通し (2018/2)		対 前年度	
	(a)	(b)	(c)	(c)-(a)	対 2018/2	
	(益率)	(益率)	(益率)	(c)-(a)	(c)-(b)	
受注高	3,989	4,000	4,004	15	4	
売上高	3,993	3,600	3,764	▲229	164	
営業利益	(3.7%) 149	(1.8%) 65	(1.6%) 59	(▲2.1%) ▲90	(▲0.2%) ▲6	
経常利益	(2.8%) 112	(1.0%) 35	(0.9%) 33	(▲1.9%) ▲79	(▲0.1%) ▲2	
親会社株主に帰属 する当期純利益	(1.5%) 58	(0.6%) 20	(0.6%) 21	(▲0.9%) ▲37	(0.0%) 1	

(億円)

	2016年度	2017年度		比較	
	実績 (a)	見通し (2018/2) (b)	実績 (c)	対 前年度 (c)-(a)	対 2018/2 (c)-(b)
環境・プラント	2,406	2,600	2,572	166	▲28
機械	1,069	950	984	▲85	34
インフラ	332	350	314	▲18	▲36
その他	182	100	134	▲48	34
計	3,989	4,000	4,004	15	4

(億円)

	2016年度	2017年度		比較	
	実績 (a)	見通し (2018/2) (b)	実績 (c)	対 前年度 (c)-(a)	対 2018/2 (c)-(b)
環境・プラント	2,546	2,150	2,318	▲228	168
機械	1,037	1,000	1,006	▲31	6
インフラ	292	300	282	▲10	▲18
その他	118	150	158	40	8
計	3,993	3,600	3,764	▲229	164

(億円)

	2016年度	2017年度		比較	
	実績 (a)	見通し (2018/2) (b)	実績 (c)	対 前年度 (c)-(a)	対 2018/2 (c)-(b)
環境・プラント	113	20	13	▲100	▲7
機械	22	30	25	3	▲5
インフラ	10	10	14	4	4
その他	4	5	7	3	2
計	149	65	59	▲90	▲6

		(億円)
2016年度 営業利益		149
増減内訳	・Inova社の個別工事の採算悪化	▲82
	・機械、インフラ、その他セグメントの改善	+9
	・一般管理費の増加他	▲17
2017年度 営業利益		59

(億円)

	2016年度	2017年度	比較
金利負担額	▲5	▲6	▲1
持分法による投資損益	7	5	▲2
その他営業外損益	▲39	▲25	14
営業外損益 計	▲37	▲26	11

	2016年度	2017年度	比較
特別利益			
固定資産売却益	14	—	▲14
特別損失			
海外事業関連損失	▲30	—	30
特別損益 計	▲16	—	16

(億円)

		2016年度	2017年度	比較
キャッシュ・フロー	営業活動によるキャッシュ・フロー	173	▲34	▲207
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲70	▲107	▲37
	財務活動によるキャッシュ・フロー	▲84	▲40	44
	現金・現金同等物の増減額	(注1) 12	(注1)▲181	▲193
	現金・現金同等物の期首残高	496	508	12
	現金・現金同等物の期末残高	508	327	▲181

		2016年度	2017年度	比較
有利子負債	借入金	(注2) 992	(注2) 972	▲20
	社債	100	100	0
	合計	1,092	1,072	▲20

(注1)為替換算差額含む (2016年度：▲7, 2017年度：0)

(注2)リース債務を含む

2. 2018年度業績見通し

(億円)

	2017年度		2018年度		比較 (b)-(a)
	実績 (a)	中計 (2017/5)	見通し (2018/5) (b)		
	(益率)	(益率)	(益率)	(益率)	
受注高	4,004	4,300	4,300	296	
売上高	3,764	4,000	3,800	36	
営業利益	(1.6%) 59	(4.1%) 165	(3.3%) 125	(1.7%) 66	
経常利益	(0.9%) 33	(3.5%) 140	(2.4%) 90	(1.5%) 57	
親会社株主に帰属 する当期純利益	(0.6%) 21	(2.0%) 80	(1.3%) 50	(0.7%) 29	

(億円)

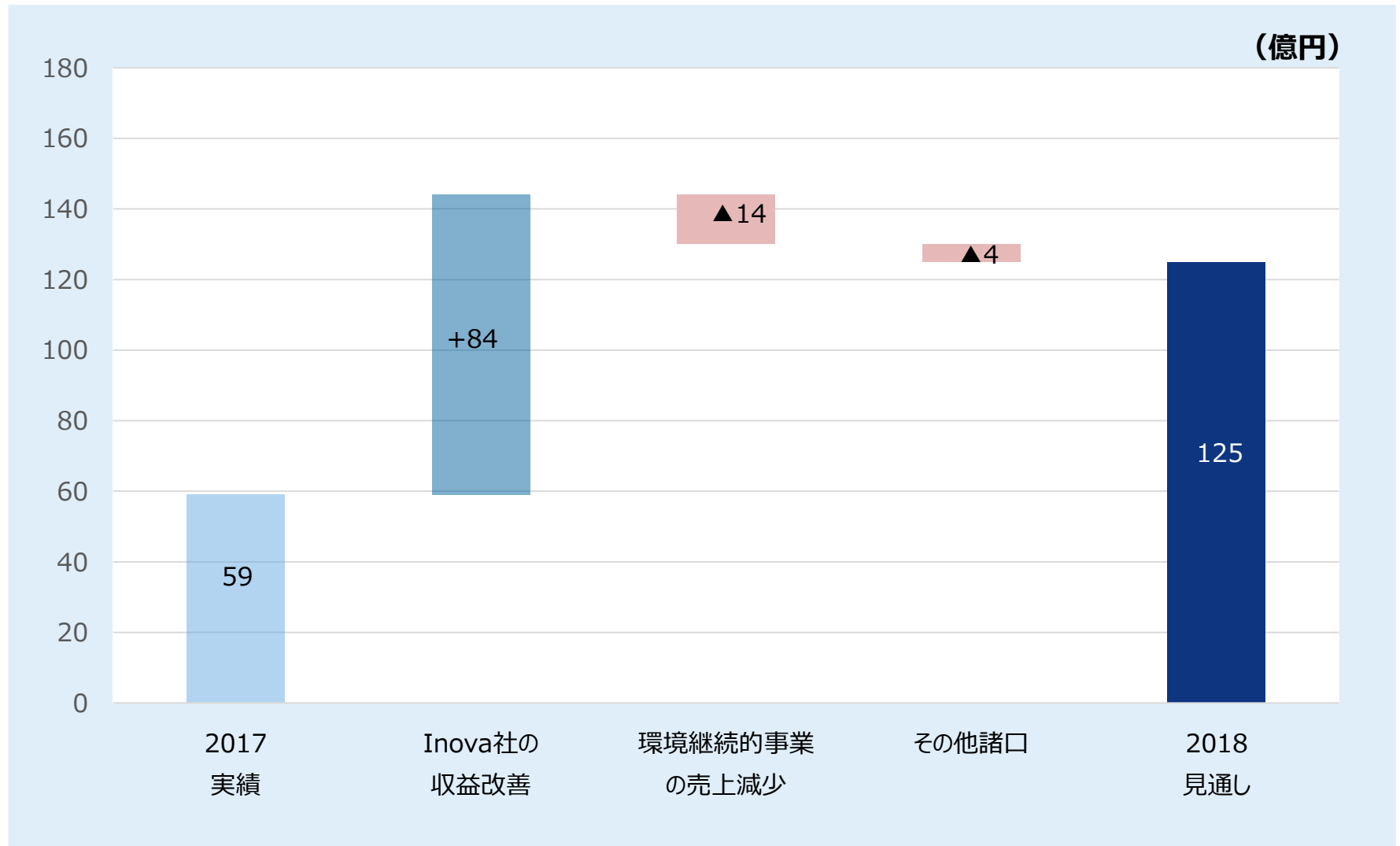
	2017年度 (実績)	2018年度 (見通し)	比較
環境・プラント	2,572	2,800	228
機械	984	1,000	16
インフラ	314	400	86
その他	134	100	▲34
計	4,004	4,300	296

(億円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (見通し)	比較
環境・プラント	2,318	2,400	82
機械	1,006	1,000	▲6
インフラ	282	300	18
その他	158	100	▲58
計	3,764	3,800	36

(億円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (見通し)	比較
環境・プラント	13	90	77
機械	25	20	▲5
インフラ	14	10	▲4
その他	7	5	▲2
計	59	125	66



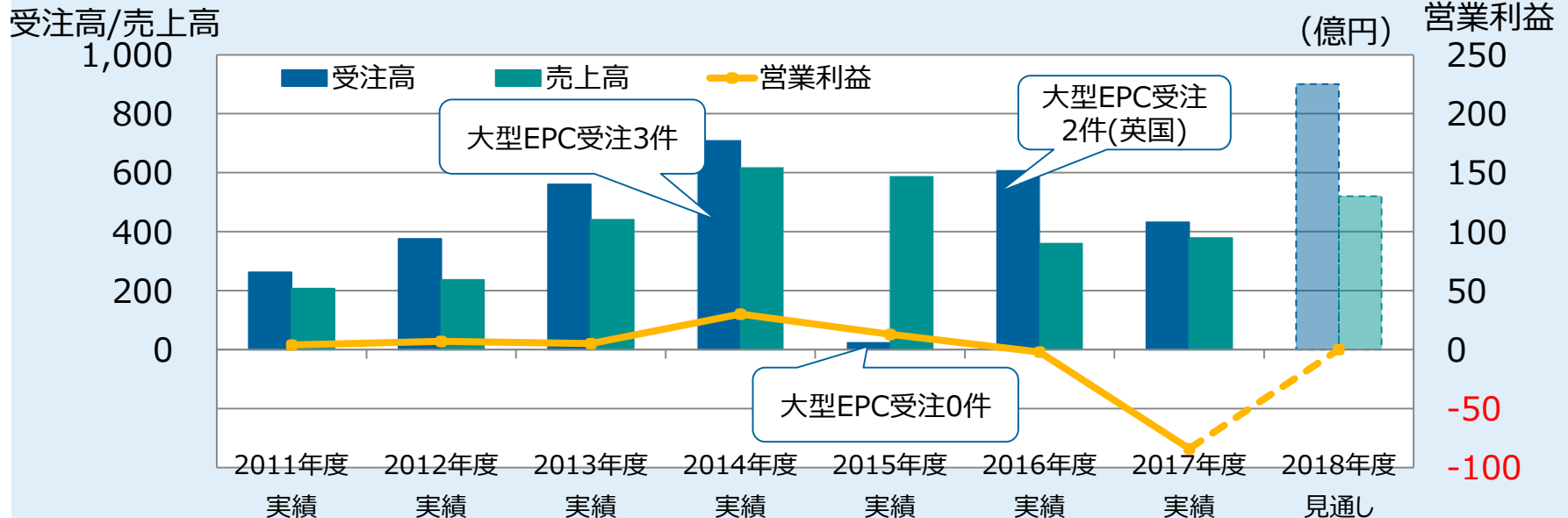
3. 2017年度事業トピックス

■ Inova社 事業概要

EfW : Energy from Waste

項目	
主要事業	EfW プラント(都市ごみ焼却方式・有機性ごみ乾式メタン発酵方式)、バイオガス精製設備のEPC・AOM (都市ごみ焼却：1960年～日立造船のライセンサー)
主要市場	欧州、中東、北米
市場でのポジション	欧州シェアNo.1(2014年-2016年累計)
主要顧客	廃棄物処理事業者、地方自治体
組織/拠点	本社：スイス、サービス拠点:スイス・ドイツ 営業拠点:米国・UAE・オーストラリア

■ Inova社 買収後の業績推移



2014年度の連続受注後の要員不足や、2016年度受注案件におけるコスト織込み不足の影響で収益悪化。

根本原因

対応策

Hitz

- Hitzからのガバナンス不足
 - ・現地のマネジメントに対するモニタリング・指導が不足。

- 新CEO任命
 - ・発電プラント建設分野のPM経験豊富な人材を任命
- 監督機能強化
 - ・取締役会長(Hitzより派遣)の常駐化
 - ・取締役会の活性化
(開催頻度・審議項目の見直し・Hitz環境事業本部との連携強化)
- リスク管理機能強化
 - ・プロジェクトモニタリング部門を独立させHitzより中堅エンジニアを派遣

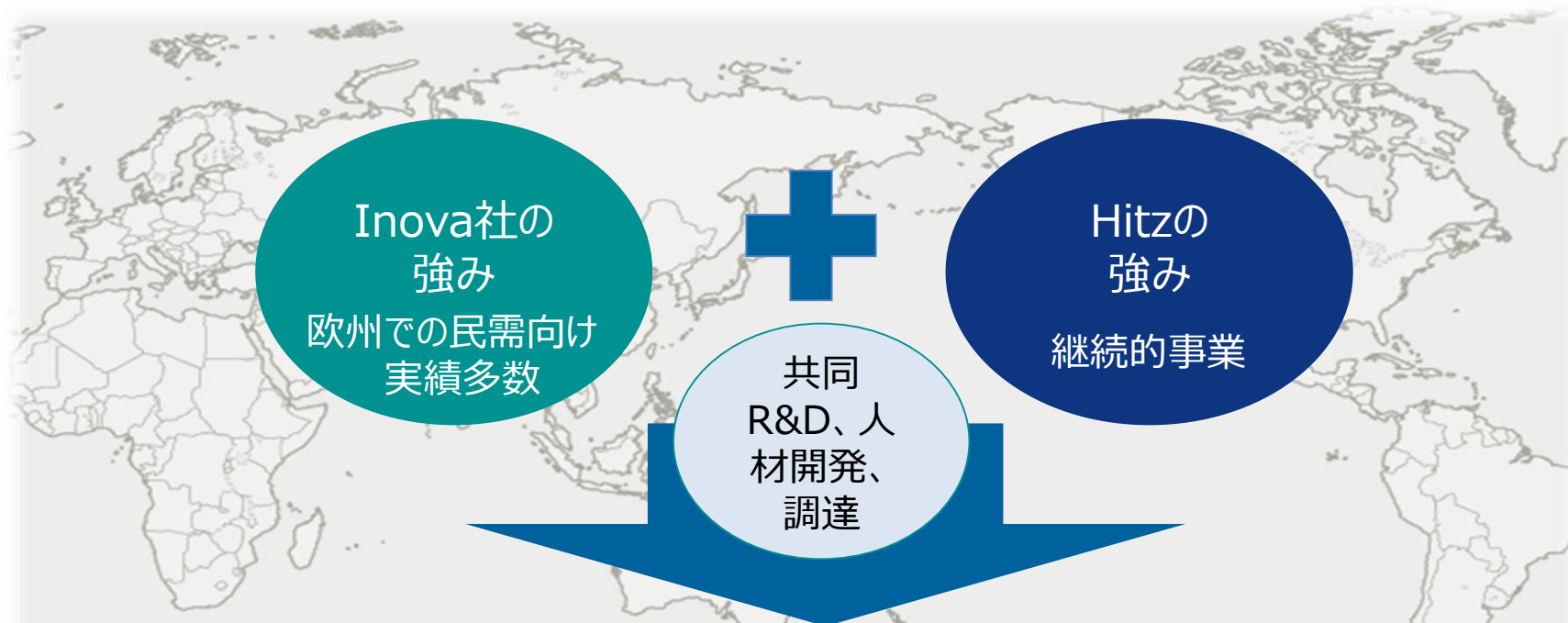
Inova 社

- Inova社 マネジメントの問題
 - ・プロジェクトモニタリング
 - ・プロジェクト体制 (手法)
 - ・EPC依存(AOM拡大の遅れ)
- Inova社 社内コミュニケーション不足
- 受注環境の激化
 - ・受注採算性の低下
 - ・フルターンキー案件の増加

- 新CEOがリバイバルプラン(4P12A)を策定し改革に取り組む。
(4P12A)
…4つのPriority、12のAction
- Priority1 : EPC事業の改善
 Priority2 : チーム力の強化
 Priority3 : Inova社収益源の多様化
 Priority4 : 競争力の強化

■ EfW事業のグローバル展開（Inova社のポテンシャルを活用して）

- 地球規模での環境保全と快適で安全な生活を実現する社会・産業インフラ構築に貢献するために、EfW事業のグローバル化に挑戦する。
- そのために、HitzはInova社が欧州を中心に築いてきた実績・ノウハウ・ネットワークを活用する。グローバル人材育成のプラットフォームとしても活用を進める。
- 一方、Inova社は、Hitzが蓄積したノウハウを活用して、継続的事業を拡大していく。
- 両社の強みを生かした技術・事業開発を推進する。



循環型社会実現に向けたソリューションプロバイダー

■ 事業環境

- ・人口減、施設の老朽化・集約化に伴い、国内一般廃棄物処理施設数は減少傾向。
- ・顧客の課題は、施設老朽化と予算緊縮。

■ 新たな取組み

- ・対象施設数の減少による収益減少を防止し、将来に亘って継続的事業の増収・増益を実現するため、開発・提案・事業化のスピードアップに着手済。

(1) 基幹的設備改良工事の案件ストック拡大

- ・建築耐用年数60年を目標に、2回目の当該改良工事を提案中。
- ・本提案により、将来の受注につながる当該改良工事のストック案件が増加。

(2) 定期修理・特別工事

の受注拡大

- ・顧客ごとの課題を解決する提案活動を実施中

環境・プラント部門 継続的事業の業績推移
(基幹的設備改良工事は内数)

(億円)

	実績			見通し
年度	2015	2016	2017	2018
受注高	1,564	1,236	1,704	1,350
売上高	1,190	1,246	1,344	1,250
営業利益	143	162	139	125

■ 収益状況

- ・2017年度実績、2018年度見通しともに水面下。

■ 価格動向

- ・ここ数年価格アップ交渉を続けてきたが、船価下落、国内造船所の受注低迷の影響で、下落は避けられない見込み。

■ 黒字化実現に向けた施策

- ・選別受注の継続
- ・アフターサービスの伸長（サービスメニュー拡充、人員増、重点マーケットへの取組み強化）
- ・技術の差別化（船用SCRシステム(※)の受注本格化：累計21基受注）



(※)船用SCR(Selective Catalytic Reduction)システム：船用原動機から排出されるNOxを触媒で除去する装置

船用原動機の業績推移 (億円)

年度	実績			見通し
	2015	2016	2017	2018
受注高	354	208	177	185
売上高	254	255	204	210
営業利益	▲26	▲4	▲3	▲5

■顧客の業況動向

- ・日系自動車メーカーの世界生産台数は足下は堅調だが、先行きは不透明。

■プレス事業の市場動向

- ・プレス事業の受注動向は日系自動車メーカーの数年先の販売予測と連動。
- ・自動車メーカー各社は設備投資に慎重姿勢。

■価格動向・当社シェア

- ・価格はここ数年で約10%低下したが、足下は回復傾向。
- ・シェア約30%（大型・超大型プレス市場における2017年度実績、日鍛工統計）

■収益力強化への取組み

- ・顧客ニーズの早期把握
 - ・車体軽量化のための新素材対応（超ハイテン、アルミ材など）
- ・顧客が求める仕様の製品の提案
 - ↓
 - ・受注活動を有利に進め、確実に受注を獲得

プレスの業績推移 (億円)

年度	実績			見通し
	2015	2016	2017	2018
受注高	229	236	229	215
売上高	234	241	244	210
営業利益	27	23	10	10

ブイテックス社が、半導体向け真空バルブの生産設備を2倍に増強。

■ 背景

- ・堅調な需要増大を見込み、生産能力の増強を図る。
- ・東海工場および韓国工場の能力増強により事業拡大を目指す。

■ 設備投資の内容

- ・東海工場（茨城県ひたちなか市）
真空バルブ用クリーンルーム棟新設
- ・韓国工場
クリーンルーム増設、既存設備のレイアウト変更
- ・投資額：約15億円

精密機械の業績推移 (億円)

年度	実績			見通し
	2015	2016	2017	2018
受注高	171	287	270	270
売上高	230	218	270	260
営業利益	▲10	2	15	12

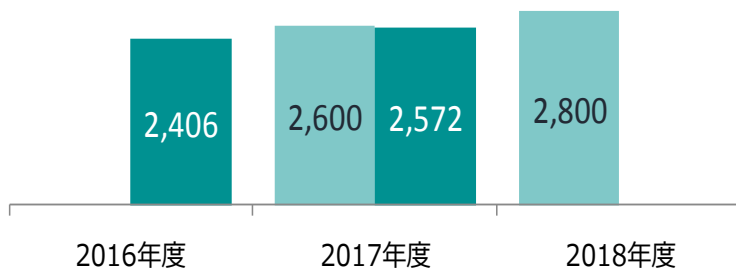
※真空バルブ

- ・半導体や有機ELパネルの製造工程で使用される気体の流れを制御するバルブ

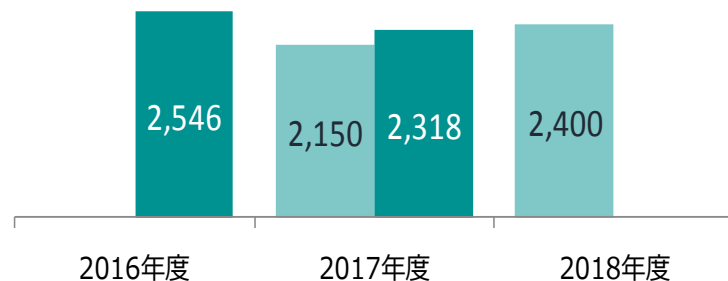
4. セグメント別詳細

【受注高】 (億円)

■ 見通し (2017年度は2018年2月公表値) ■ 実績



【売上高】



【営業損益】



受注高

■ 2017年度実績 (2016年度比)

2,572億円 (+166億円)

- ・国内継続的事業で長期運営・基幹改良案件を複数受注

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

2,800億円 (+228億円)

- ・Inova社で複数の大口案件の受注を見込む

売上高

■ 2017年度実績 (2016年度比)

2,318億円 (▲228億円)

- ・カタル向け海水淡水化プラント建設工事の出来高減少

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

2,400億円 (+82億円)

- ・Inova社でイスタンブール案件の順調な進捗を見込む。
- ・国内継続的事業が減少

営業損益

■ 2017年度実績 (2016年度比)

13億円 (▲100億円)

- ・Inova社で個別工事のコストアップによる採算悪化

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

90億円 (+77億円)

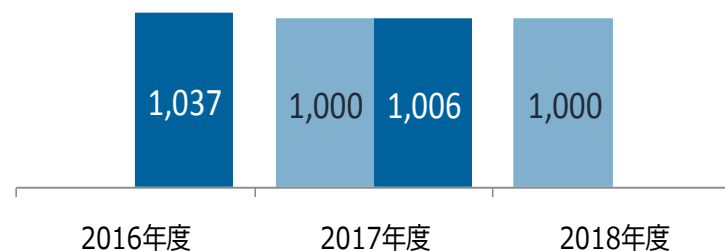
- ・Inova社の改善を見込む

【受注高】 (億円)

■ 見通し (2017年度は2018年2月公表値) ■ 実績



【売上高】



【営業損益】



受注高

■ 2017年度実績 (2016年度比)

984億円 (▲85億円)

・ 船用原動機の減少とプロセスの時期ずれ

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

1,000億円 (+16億円)

・ 船用原動機とプロセスの回復を見込む

売上高

■ 2017年度実績 (2016年度比)

1,006億円 (▲31億円)

・ 精密機械が増加も、船用原動機とプロセスの減少をカバーしきれず

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

1,000億円 (▲6億円)

・ プレスの減少を見込む

営業損益

■ 2017年度実績 (2016年度比)

25億円 (+3億円)

・ プレスの減少を精密機械でカバー

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)

20億円 (▲5億円)

・ 船用原動機の採算改善の遅れ

【受注高】 (億円)

■ 見通し (2017年度は2018年2月公表値) ■ 実績



【売上高】



【営業損益】



受注高

■ 2017年度実績 (2016年度比)
314億円 (▲18億円)

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)
400億円 (+86億円)
・シールド掘進機の回復を見込む

売上高

■ 2017年度実績 (2016年度比)
282億円 (▲10億円)
・海洋の大口工事の減少

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)
300億円 (+18億円)

営業損益

■ 2017年度実績 (2016年度比)
14億円 (+4億円)
・個別工事の採算改善

■ 2018年度年間見通し (2017年度比)
10億円 (▲4億円)

5. 補足資料（小セグメント）

計数計画（環境・プラント部門 小セグメント 年間）

（億円）

		2015年度	2016年度	2017年度				2018年度	比較	
		実績	実績 (a)	見通し (2017/5)	見通し (2017/11)	見通し (2018/2) (b)	実績 (c)	見通し	対 前年度 (c)-(a)	対 2018/2 (c)-(b)
受注高	EPC(新規建設)	1,273	1,170	1,250	1,060	910	868	1,450	▲302	▲42
	継続的事業	1,564	1,236	1,300	1,490	1,690	1,704	1,350	468	14
	計	2,837	2,406	2,550	2,550	2,600	2,572	2,800	166	▲28
売上高	EPC(新規建設)	1,226	1,300	940	910	910	974	1,150	▲326	64
	継続的事業	1,190	1,246	1,210	1,240	1,240	1,344	1,250	98	104
	計	2,416	2,546	2,150	2,150	2,150	2,318	2,400	▲228	168
営業利益	EPC(新規建設)	5	▲49	▲36	▲56	▲116	▲126	▲35	▲77	▲10
	継続的事業	143	162	121	136	136	139	125	▲23	3
	小計	148	113	85	80	20	13	90	▲100	▲7

計数計画（機械部門 小セグメント 年間）

(億円)

		2015年度	2016年度	2017年度			2018年度	比較		
		実績	実績 (a)	見通し (2017/5)	見通し (2017/11)	見通し (2018/2) (b)	実績 (c)	見通し	対 前年度 (c)-(a)	対 2018/2 (c)-(b)
受注高	船用原動機	354	208	175	175	175	177	185	▲31	2
	プレス	229	236	200	200	200	229	215	▲7	29
	プロセス	169	183	200	190	160	151	160	▲32	▲9
	精密機械	171	287	270	280	260	270	270	▲17	10
	その他	149	155	155	155	155	157	170	2	2
	計	1,072	1,069	1,000	1,000	950	984	1,000	▲85	34
売上高	船用原動機	254	255	210	210	210	204	210	▲51	▲6
	プレス	234	241	215	215	230	244	210	3	14
	プロセス	160	164	170	140	135	137	160	▲27	2
	精密機械	230	218	250	280	270	270	260	52	0
	その他	167	159	155	155	155	151	160	▲8	▲4
	計	1,045	1,037	1,000	1,000	1,000	1,006	1,000	▲31	6
営業利益	船用原動機	▲26	▲4	0	0	0	▲3	▲5	1	▲3
	プレス	27	23	14	12	12	10	10	▲13	▲2
	プロセス	9	0	2	2	2	3	2	3	1
	精密機械	▲10	2	6	13	13	15	12	13	2
	その他	▲8	1	3	3	3	0	1	▲1	▲3
	計	▲8	22	25	30	30	25	20	3	▲5



地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

Hitz
Hitachi Zosen

日立造船株式会社

<http://www.hitachizosen.co.jp/>